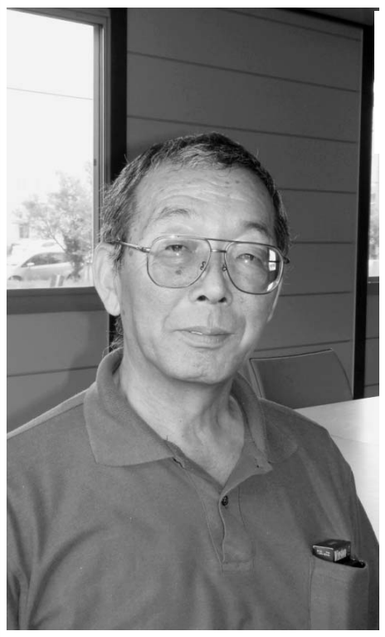
立ち上がる中小企業 操業再開の槌音響く

中小企業再興の今

大堀相馬焼協同組合 理事長 半谷 秀辰氏に聞く

結び付き大切に 伝統を継承



300年以上の歴史を持つ「大堀相馬焼」。福島県浪江町一円で生産されるその焼き物は「青ひび」の美しさなどで知られる伝統的工芸品だ。産地は東京電力福島第一原子力発電所事故で設定された警戒区域にあり、21の窯元で構成する大堀相馬焼協同組合の組合員らは、県内外に避難した。震災から1年3カ月が過ぎた今も避難生活は続いているが、再起への道を少しずつ歩みつつある。浪江町が役場機能を移している福島県二本松市にある小沢工業団地内で仮工房を7月にも開所する。そこで、半谷秀辰大堀相馬焼協同組合理事長に今後の課題などを聞いた。

◇

―中小企業基盤整備機構の震災に伴う「仮設施設整備事業」を活用して、組合の新たな拠点が整備されました。

「建物の延べ床面積は約720平方㍍の規模。仮設の工房、事務所、倉庫、売店、陶芸教室などを整備。ガス炉（窯）2基と電気炉1基の計3基を設ける。設備は各窯元が共同で使う。詳細な運用方法はこれから詰めていくことになる」

―現状の取り組みは。

「今月29日に新拠点でプレオープンイベントを開く。近郊に避難している浪江町の方々などに大堀相馬焼協同組合が立ち上がりつつある姿を報告するのが目的。正式には7月24日に開所のセレモニーを開く予定だ」

―材料などの調達については。

「福島県ハイテクプラザの協力なども得て代替材料にめどが立った。粘土やうわぐすりなど今後の生産に問題はなく、その点での心配はなくなった」

―今後の課題は。

「新たな拠点が立ち上がっても各窯元がみな戻って来る状況でもない。再起の足がかりの場はできたが、悩みは尽きない。震災から1年以上がたち、販路をつかめるのかなど、考えることは多くある。当面は組合の運転資金などが大きな課題となる。厳しい中だが、再起に向けた若手の意欲は高い。7月の開所後にも組合のみんなで落ち着いて話し合っていきたい」

小浜製作所は信田沢地区仮説工場団地で操業再開

東日本大震災から1年3カ月が過ぎ、甚大な津波被害を受けた被災地の工場からは操業再開のつち音が響いてきた。震災前後で事業環境が大きく変わり、今もさまざまな困難にも直面しているが、自ら磨いた技術を武器に地域の再興に全力を尽くしている。

19・5km地点からの再開

福島県南相馬市

高さ18㍍の大津波が襲い、さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故で甚大な被害を受けた福島県南相馬市。震災から7カ月後の2011年10月18日、小浜製作所（福島県南相馬市）は、中小企業基盤整備機構が新設した同市原町区「信田沢地区仮設工場団地」で操業を再開した。

同社は3次元加工が得意で、主力はプラスチックや金属の精密加工。食品装置から医療機器関連など幅広い分野を扱えるのが強みだ。震災前、同社は福島第一原発から19・5キロ㍍地点の同市原町区小浜でモノづくりに励んでいた。工場は海から百㍍ほどだが、周辺よりも高い位置にあったため津波被害からは免れた。

工場と機械は無事だったが、原発事故が事業継続を困難にした。政府が11年4月22日に同原発から半径20キロ㍍を警戒区域に設定する前日の21日まで社員と一緒に会社に泊まり込んで、受注していた試作品の製作に没頭していた。22日から自社工場への立ち入りが制限された。

川岸利夫社長は「地震と津波だけならば電気が通った4月14日から動けたが、原発が爆発したせいで7カ月も動けなかった」と話す。

再開を迷った時期もあったが、社員たちの熱意に押されて決断した。11年9月末に工場の建屋が完成し、元の工場にあった25台の工作機械のうち17台を運び込んだ。再開しても受注できるのか、心配した時期もあった。

再開当日、長年取引していた食品装置メーカーの社長が「再開を待っていた」と言い、分厚い注文書を置いていった。「ありがとうございます」。言葉が詰まった。

新天地で仕事を始めて8カ月が過ぎた。受注状況は震災前の7割。川岸社長は「モノづくりは日々、進化しており、7カ月も休業したのは正直、マイナスだ。だが、私たちはこの震災を乗り越えてきた。今までの技術をさらに磨いて少しずつだが、着実に進んでいきたい」と思っている。

工場には金属を削る機械音が、今日も鳴り響く。

″魚の街″復興に汗 地域活性化へ力強い歩み

宮城県石巻市

水産加工業でも復旧・復興が進み始めた。日本有数の漁港、宮城県石巻市。海とともに生きてきた″魚の街″は大津波で破壊された。魚市場の後背地で水産加工団地がある魚町、松並地区。震災前200社ほどのメーカーが軒を連ねていた。地震と津波で1㍍も地盤沈下したが、地区のかさ上げ工事や工場再建もようやく始まった。

養殖用配合飼料の原料などを製造販売している石巻魚糧工業は、2月に工場を再建した。工場と本社建屋は石巻漁港から500㍍ほどの松並地区で建物は津波で、すべて流された。同社の稲井幹男社長は「2年後の14年6月期に震災前の売上高約15億円までに挽回したい」と話す。

9億5000万円の再建費用を投じて、生産能力は年9万㌧の工場と事務所を新築した。復旧工事は11年9月から始めたが、建築資材や職人不足などで何度も中断。2月24日にようやく完工した。社員は18人だが、一人も解雇しなかった。

「みんな苦しい中、歯を食いしばって頑張ってくれた。何としても売上高を戻す」と心に決めた。

魚粉や魚油の原料にはイワシやサバ、サンマ、切り身やすり身に加工した魚の骨などを使う。港や製氷工場の整備は徐々に進んできたが、元の水揚げ高には戻っていない。

だが、稲井社長は「石巻はさかなの街。仮設でも何でも操業を再開し、一歩ずつ復興に向けて仲間とともに頑張りたい」と歩みをやめない。

宮城県女川町

石巻市の隣町、女川町の高政。地元の魚を使った笹かまぼこを製造しており、全国に多くのファンがいる老舗だ。

町の中心部は津波でほとんどの建物が流出したが、同社は中心部から離れた場所にあったため津波被害はほとんど受けなかった。

震災から7日後の11年3月18日から避難所にかまぼこを配布した。9月には老朽化した旧工場に代えて万石工場（同）を稼働させ、生産能力を4倍に増強した。さらに従業員数を約5割増の169人にし、雇用拡大を通じて地域の復興に取り組んでいる。

同社の高橋正寿専務は「女川の復興には経済の活性化が欠かせない。事業を通じて貢献していきたい」と話す。被災した企業は震災直後の混乱を猛烈な努力で切り抜け、そして力強く歩み始めている。

高政は雇用拡大を通じて地域の振興に取り組む

復旧・復興を支える
東北の優良企業

普通鋳鋼品・特殊鋳鋼品・ダクタイル鋳鉄品
特殊耐火物(ジルボン)・鋳鉄品
福島製鋼株式會社
代表取締役社長　清水　良一
本社吾妻工場　〒960-8661　福島市笹木野字天竺田8-1　TEL　024-534-5161
相模工場　〒252-0101　神奈川県相模原市緑区町屋1-1-40　TEL　042-782-2721
URL：http://www.f-seiko.co.jp

Industry Members Club
新会員募集中!!
東北4産業人クラブ
宮城・山形・福島・いわき

ISO 9001認証取得
OHSAS 18001認証取得
Fukushima
ISO14001認証取得
世界の海へ　船へ――甲板機械の
アンカーハンドリングウィンチ
株式会社 福島製作所
◆舶用甲板機械　◆海底油田開発用アンカーハンドリングウィンチ
◆グラブバケット　◆鋳造品・機械加工
代表取締役社長　立石　吉識
〒960-8054　福島県福島市三河北町9番80号
TEL. 024(534)3146・FAX. 024(533)8318
URL　http://www.fukusei.co.jp

M SOLUTION
TOEIは「Mソリューション」として、要素技術の開発に力を入れ
材料 MATERIAL　磁気 MAGNET　真空 VACUUM　測定 MEASUREMENT
をテーマに装置開発・製造を行っております。
新工場が稼動しました
磁気技術
振動試料型磁力計VSM／磁気デバイス用非磁性プローバー／3次元空間磁界プロファイリング／高感度薄膜磁歪測定装置／交流B-H磁石材料評価装置／磁場中熱処理装置／磁気測定用電磁石／低残留電磁石／高周波薄膜透過率測定装置／着磁脱磁装置／パルクリボン磁歪測定装置／ガウスメーター／バイポーラ電源
特機技術
摩擦・摩耗試験機／単結晶育成炉／スパッタ装置／蒸着装置／ホットプレス／アーク溶解炉／高周波溶解炉／急冷熱処理炉／大気・真空炉／雰囲気炉／超高温炉／急冷薄帯作成装置／各種試験器・真空装置・自動機等
振動試料型磁力計（VSM）
第4回 みやぎ優れMONO認定
詳しくはwebサイトでhttp://www.toei-tc.co.jp/
株式会社 東栄科学産業
本　社／〒982-0032 仙台市太白区富沢四丁目8番29号　TEL.022-743-3221㈹　FAX.022-743-3235
名取工場／〒981-1251 宮城県名取市愛島台1-101-60　TEL.022-382-6681　FAX.022-382-6682